

# 農作物技術情報 第6号 花き

発行日 平成30年 8月30日  
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部  
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます  
パソコン、携帯電話から「<http://i-agri.net/Index/gate002>」

- ◆ りんどう 花腐菌核病等病害虫の適期防除を行いましょ。
- ◆ 小ぎく 収穫後管理を徹底し、健全な伏せ込み苗・株を確保しましょ。

## りんどう

### 1 生育概況

- ・ 盆需要期品種の出荷状況については、一部地域で高温等の影響によりやや開花が遅れましたが、概ね需要期内の出荷となりました。晩生種については、平年並～やや生育前進となっています。
- ・ 病害虫の発生状況について、病気は葉枯病、黒斑病が増加傾向にあるほか、一部地域で褐斑病がみられます。害虫はハダニ類が増加傾向にあります。
- ・ 今後の重要病害である花腐菌核病は、冷涼地で子実体（きのこ）の発生を確認していますので、各地域の普及センターの情報を参考に防除を開始します。

### 2 栽培管理

#### (1) かん水

圃場が乾燥した場合は引き続き通路かん水を行います。ただし、高温時の日中に長時間通路滞水しないように注意します。

#### (2) ネット管理

茎が曲がらないよう随時ネットの位置を調整します。併せて、強風に備えネットと支柱を点検、補強します。

#### (3) 残花処理

病害虫防除等を目的として、収穫後圃場の花茎除去（花の着いている茎の部分の折り取り）を行います。この作業は、花腐菌核病の防除に特に有効です。

### 3 病害虫防除

#### (1) 花腐菌核病

夏の暑さを経過して気温が涼しくなると、圃場に病原菌の子実体（きのこ）が発生し（写真1）、胞子が花蕾に付着して感染します。よって、冷涼地ほど早く発生する特徴があります。青や紫花品種では感染すると花卉が鮮やかなピンク色に変色しますが（写真2）、桃花や白花品種では淡褐色となり、花色によって病斑の色が異なります。

8月20日時点で県北部の一部地域において子実体の発生を確認しており、冷涼地では既に重点防除時期となっています。有効薬剤による防除を開始するとともに、感染・伝染源となる残花の除去を徹底します。



写真1 株元に形成された子実体(きのこ)  
(傘の直径は大きいもので5mm程度)



写真2 花腐菌核病発生花(右側)  
(左の無病花と比べてピンク色に変色)

(2) 葉枯病

秋季にも発生が拡大する場合がありますので、収穫終了した品種も防除を継続します。

(3) 黒斑病

一部地域で発生がみられており、今後の状況に注意が必要です。葉の傷口等から容易に感染するため、台風の接近後に感染が拡大した事例があります。治療は困難ですので、有効薬剤を継続して予防散布します。

(4) ハダニ類

今後も高温で推移した場合、例年よりも遅くまで発生する可能性があります。発生状況によっては追加散布を検討しますが、同一系統薬剤は年1回の使用を基本とします。

(5) アザミウマ類

収穫後の残花が増殖源となるため、花茎除去が防除に有効です。併せて、収穫後圃場の薬剤散布を継続するとともに周辺雑草の除草を行います。

## 小ぎく

### 1 生育概況

- ・ 8月咲き品種については、高温による開花抑制の影響等により開花は平年よりも遅れました。9月咲き品種については、概ね平年並となっています。
- ・ 病害虫の発生状況について、病気は全般に少発傾向ですが、一部地域で白さび病がみられます。害虫は依然アブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類が多いほか、オオタバコガが増加傾向にあります。
- ・ オオタバコガは花蕾を好んで食害することから、出荷に大きな影響を及ぼす場合があります。圃場をこまめに観察して発生状況を確認するとともに、各地域の普及センターの情報を参考に初期防除に留意します。

### 2 栽培管理

(1) かん水・排水対策

乾燥が続く場合は萎れる前にかん水します。ただし、高温時の滞水は根腐れを起こして枯れ上がりやすいので十分に注意します。一方で湿害にも弱いため、大雨後は排水対策が重要です。圃場内が冠水した場合は、溝切り等によって速やかに排水を促します。

(2) ネット管理

りんどうと同様、茎の曲がりが生じないように、随時フラワーネットの位置を調整します。また、今後の台風に備え、ネットと支柱を点検・補強します。

### (3) 収穫後管理

伏せ込みに利用する株については、収穫後に地上部が伸びすぎないように地際5～10cmのところまで刈り込みをします。その後、速効性の化成肥料を窒素成分量で3kg/10a程度施用します。マルチ栽培では、生育を促すために刈り込みにマルチを除去して土寄せするのが基本ですが、除草労力を考慮して決めます。なお、かき芽で伏せ込む場合は、刈り込みに発生した側枝に土寄せをして側枝の発根を促します。

## 3 病虫害防除

### (1) 白さび病

夏季高温時は一時的に発生が収まりますが、今後涼しくなると再び発生が拡大する可能性があります。収穫前圃場はもちろんですが、収穫後圃場も継続して薬剤散布を行います。

### (2) オオタバコガ

老齢幼虫は一般に薬剤効果が劣るため、若齢幼虫の段階で防除することが重要です。また、着蕾期以降に発生した場合、中齢以降の幼虫は花蕾に潜り込んで食害していることが多いので、食毒作用のある有効薬剤を選択します。

## 4 伏せ込み床の施肥について

同じハウスを何年も伏せ込みに使用している場合、長年の肥料成分の蓄積（塩類集積）によって根が肥料焼けを起こし生育不良となる事例がみられます（写真3）。積極的に土壌診断を行い、処方箋に基づいた適正施肥を行います。また、塩類集積が過度に進行している場合は、土壌中の肥料成分を減らす（除塩）ことが必要となりますので、最寄りの普及センターまでご相談ください。



写真3 塩類集積による伏せ込み株の生育不良  
※根の障害により養水分を十分に吸収できず、葉の黄化や生育不良がみられる

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。